

科目名 (英)	口腔機能管理 Oral rehabilitation and functional	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	デンタルサポート株式会社 城 明妙
		授業形態	講義		有	開講区分	
		時間数	15	授業回数	8		
学科・コース	歯科衛生士科 I 部	単位	1				
講師紹介	デンタルサポート(株)所属歯科衛生士 様々な臨床分野で経験を積んだ歯科衛生士。市町村保健センター、訪問歯科、高齢者施設、デイサービス、歯科クリニックなどでの勤務経験を持ち、その経験や実績から、事例を踏まえた講義を実践します。国家試験に多く出題される口腔機能支援にもかかわる分野でもあり、介護保険制度の中での口腔衛生管理についての理解が深まるように講義を行う。						
目的	歯科外来、訪問歯科診療、高齢者施設、デイサービスなど様々な場面での口腔管理が必要となっている。特に外来においては口腔機能低下症が疾患として成立しており、その管理が必要となっている。また、高齢者のみならず乳幼児・学童の口腔機能管理は生涯において生きるために自身の口でしっかり食べるためにとても大切な役割をになっている。口腔機能を管理できる知識と技術を習得することを目的としている。						
科目概要	要介護者、高齢者だけでなく乳幼児や学童も含め、口腔の機能を管理することが、食べて話し、生きるために必要な口を守ることに繋がっている。口腔機能とは何か、その機能を維持するには何をすべきかその目的と効果やアセスメント方法とともに知識、実技を習得する。						
到達目標	乳幼児、学童、要介護者、高齢者、障害者の口腔機能低下の予防方法、育成方法を知り、適切な口腔機能管理を行うことができる。また、多職種と連携した口腔機能管理を行うために必要な記録、情報共有、連携時に必要な知識と技術が習得できることを目的とする。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ( )は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	パワーポイント出力資料			事前事後 学習と その内容	代表的な症例を予習することにより、深い理解や知識を繋げることに より患者実習、臨床実習に役立つ。		
参考図書	摂食嚥下(日本歯科衛生士会)						
特記事項	なし						

### 授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	口腔機能とは	講義	1、口腔機能について考える 2、口腔機能低下の疑似体験
2	口腔機能低下症について	講義	1、口腔機能低下症の症状 2、口腔機能低下症のアセスメント
3	口腔機能の評価と訓練	講義	1、口腔機能の評価方法 2、口腔機能の訓練方法
4	口腔機能低下・摂食嚥下障害と疾患	講義	1、口腔機能低下とその原因 2、摂食嚥下障害とその原因
5	口腔機能低下と食支援	講義	1、口腔機能低下がある場合の食支援 2、食物形態
6	口腔機能管理の記録と事例検討	講義	1、口腔機能管理の様々な記録方法 2、アセスメント 3、事例検討
7	総まとめ	講義	1、口腔機能を支援するために必要なことをまとめる 2、事例検討
8	定期試験		筆記試験 講義内容全範囲から出題する。

科目名 (英)	臨地実習Ⅱ Clinical PracticeⅡ	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	各臨地実習先指導者教員
		授業形態	臨地実習		有	開講区分	
		時間数	360	授業回数	-		
学科・コース	歯科衛生士科Ⅰ部	単位	8			曜日/時間	月・火・水・金・(土)/基本9:00~17:00
講師紹介	【各臨地実習先指導者教員】 歯科衛生に関し相当の臨床経験を有する歯科医師又は歯科衛生士とし、そのうち少なくとも一人は免許を受けた後4年以上、業務に従事し、十分な指導能力を有する者である。						
目的	以下を理解し、歯科臨床との関連について考えることができるようになる。						
科目概要	臨床現場で今までの学習を総合的にとらえ、歯科臨床に応用できる。						
到達目標	①各症例に合わせたアシスタントワークが出来るようになる。 ②指導者の指示のもと、安全に配慮した歯石除去、歯面研磨、う蝕予防処置が出来るようになる。 ③各症例に適した患者指導が出来るようになる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点~90点A(4.0)、89点~80点B(3.0)、79点~70点C(2.0)、69点~60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ( )は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート						
教科書	各教科の教科書 臨床実習ノート			事前事後 学習と その内容	前日迄に、目標を定め臨床実習ノートに記入をする。 わからなかった語句、内容は教科書で調べ翌日以降の臨床実習に 繋げることが必要である。		
参考図書	今までに使用したノートや教科書						
特記事項	【プリント(補助教材)】 随時配布						

### 授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	歯科診療所実習 歯科診療所	臨地実習	歯科医療現場で、歯科衛生士業務を理解し実践する。
2	歯科大学病院実習 昭和大学歯科病院 鶴見大学歯学部付属病院	臨地実習	歯科大学病院における臨床実習で各科の歯科衛生士業務に必要な事柄を理解し、実際の診療に参加および見学することにより知識、態度、技術を身につける。
3	保健所実習 保健所・保健センター	臨地実習	公衆衛生の現場にて、歯科支援を学ぶ。
4	保育所・幼稚園実習 保育所・幼稚園	臨地実習	幼児に対する口腔衛生指導を実施する。
5	小学校実習 小学校	臨地実習	児童に対する口腔衛生指導を実施する。
6	高齢者施設実習 特別養護老人ホーム	臨地実習	高齢者に対する口腔ケアおよび口腔衛生指導等の対応を学ぶ。
7	障がい者施設実習 心身障がい者 口腔保健センター	臨地実習	障がい者・障がい児に対して歯科支援の場における対応を学ぶ。
8	地域保健実習 品川区 大田区 川崎市	臨地実習	公衆衛生の現場で健康教育等の実践をする。

科目名 (英)	臨地実習Ⅲ Clinical PracticeⅢ	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	各臨地実習先指導者教員
		授業形態	臨地実習		有	開講区分	
		時間数	270	授業回数	-		
学科・コース	歯科衛生士科Ⅰ部	単位	6			曜日/時間	月・火・水・金・(土)/基本9:00~17:00
講師紹介	【各臨地実習先指導者教員】 歯科衛生に関し相当の臨床経験を有する歯科医師又は歯科衛生士とし、そのうち少なくとも一人は免許を受けた後4年以上、業務に従事し、十分な指導能力を有する者である。						
目的	以下を理解し、歯科臨床との関連について考えることができるようになる。						
科目概要	臨床現場で今までの学習を総合的にとらえ、歯科臨床に応用できる。						
到達目標	①実習の集大成として三大業務を実践し、基礎力を身につける。 ②指導者の指示のもと、自ら考えて行動出来るようになる						
評価方法	学則に定める評価とする。100点~90点A(4.0)、89点~80点B(3.0)、79点~70点C(2.0)、69点~60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ( )は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート						
教科書	各教科の教科書 臨床実習ノート			事前事後 学習と その内容	前日迄に、目標を定め臨床実習ノートに記入をする。 わからなかった語句、内容は教科書で調べ翌日以降の臨床実習に 繋げることが必要である。		
参考図書	今までに使用したノートや教科書						
特記事項	【プリント(補助教材)】 随時配布						

### 授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	歯科診療所実習 歯科診療所	臨地実習	歯科医療現場で、歯科衛生士業務を理解し実践する。
2	歯科大学病院実習 昭和大学歯科病院 鶴見大学歯学部付属病院	臨地実習	歯科病院における臨床実習で各科の歯科衛生士業務に必要な事柄を理解し、実際の診療に参加および見学することにより知識、態度、技術を身につける。
3	保健所実習 保健所・保健センター	臨地実習	公衆衛生の現場にて、歯科支援を学ぶ。
4	保育所・幼稚園実習 保育所・幼稚園	臨地実習	幼児に対する口腔衛生指導を実施する。
5	小学校実習 小学校	臨地実習	児童に対する口腔衛生指導を実施する。
6	高齢者施設実習 特別養護老人ホーム	臨地実習	高齢者に対する口腔ケアおよび口腔衛生指導等の対応を学ぶ。
7	障がい者施設実習 心身障害者 口腔保健センター	臨地実習	障がい者・障がい児に対して歯科支援の場における対応を学ぶ。
8	地域保健実習 品川区、大田区、川崎市	臨地実習	公衆衛生の現場で健康教育等の実践をする。

科目名 (英)	歯科衛生士総合講座 I Comprehensive Studies for Dental Hygienists I	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	三 峯 雅子
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科衛生士科 I 部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
		単位	2			曜日/時間	月～金/1～4限
講師紹介	歯科医師としての臨床経験を有し大学教員の教育経験を踏まえ、歯科衛生士に必要な知識を講義する。 歯学博士 新東京歯科衛生士学校副校長 昭和大学歯学部口腔外科学講座兼任講師 日本口腔外科学会認定専門医 日本抗加齢医学会						
目的	3年間の歯科衛生士養成カリキュラムにおいて学習した分野のうち、歯科衛生士国家試験に関わる専門基礎分野、専門分野について総まとめの講義を行い、多職種連携を行うために歯科衛生士に求められる専門知識を習得できるようになる。						
科目概要	歯科衛生士として総合的な基礎力、応用力を習得し、国家試験合格のために理解を深める。模擬試験・臨時試験・卒業見込判定試験・卒業試験を受験し、国家試験の合格を目指す。						
到達目標	歯科衛生士として総合的な基礎力、応用力を習得し国家試験合格を目指す。また、模擬試験・臨時試験・卒業見込判定試験・卒業試験を行う。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。 ( )は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	各教科の教科書			事前事後 学習と その内容	事前学習として、教科書の授業に該当するページを読むこと。 事後学習として、配布プリントを再読をすること。 授業の最後に小テストを行い、授業で得た知識の確認を行う。		
参考図書	今までに使用したノートや教科書						
特記事項	【資料(補助教材)】随時配布						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	解剖学概論 細胞の基本構造	講義	【解剖学】 解剖学の種類、人体の構成と区分、解剖学用語、体の方向用語について理解する。 細胞の中にある基本的構造(細胞内小器官)と機能、ならびに細胞分裂について理解する。
2	組織の分類 個体発生	講義	【解剖学】 身体を構成する組織の種類とその機能を理解する。 精子と卵子の発生、染色体、受精と着床、胚葉の形成、胎児の成長と発育について理解する。
3	骨と筋 脈管	講義	【解剖学】 体を構成する骨の構造と各骨の名称を理解する。筋の基本構造と全身の筋について、機能と名称を理解する。脈管系の基本的な構造と機能を理解し、全身の血管系の名称を理解する。
4	消化器系	講義	【口腔解剖学】 口腔の役割と位置を理解する。顔面における口部の存在意義を考える。
5	口腔前提 固有口腔	講義	【口腔解剖学】 各部位と区分の口腔機能を考え理解する。 口蓋と舌の働きについて考える。
6	唾液腺	講義	【口腔解剖学】 唾液腺の種類、存在部位、各唾液腺液(唾液)の性状を理解する。各唾液腺の唾液放出部を確認する。口峽と咽頭の構造を理解し、咀嚼・嚥下の機序について考える。
7	頭蓋骨 下顎骨	講義	【口腔解剖学】 各部位や構造を確認し理解する。
8	地域保健・公衆衛生(まとめ)	講義	地域保健の主な対象、法令、関係行政機関、主な活動を列挙することができる。 ヘルスプロモーション、ノーマライゼーションについて説明することができる。健康増進法、歯科口腔保健推進法、その他保健福祉関連法について記述することができる。
9	母子保健(まとめ)	講義	1歳6か月児健康診査と3歳児健康診査の違いを列挙することができる。 1歳6か月児歯科健康診査、3歳児歯科健康診査の内容、事後保健指導について具体的に述べる事ができる。
10	学校保健(まとめ)	講義	学校保健の対象を列挙することができる。学校歯科健康診断の内容について、診断票の記載など具体的に述べる事ができる。
11	成人保健	講義	生活習慣病の特性を述べる事ができる。 成人保健に関わる行政組織、関係法規を記述することができる。 成人保健事業の実際を列挙することができる。
12	産業保健(まとめ)	講義	産業保健に関わる行政組織、関係法規を述べる事ができる。 職業性歯科疾患について列挙することができる。
13	老人(高齢者)保健	講義	わが国の人口構成、疾病構造を理解することができる。 要介護高齢者対策と介護予防事業のシステムを説明することができる。
14	国際保健	講義	国際協力の仕組みを述べる事ができる。国際協力の実施期間を列挙することができる。 歯科疾患の国際的な状況を説明できる。 国際的な口腔保健目標を具体的に述べる事ができる。
15	定期試験		筆記試験 講義内容全範囲から出題する。

科目名 (英)	歯科衛生士総合講座Ⅱ Comprehensive Studies for Dental HygienistsⅡ	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	一宮 頼子
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科衛生士科Ⅰ部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
		単位	2			曜日/時間	月～金/1～4限
講師紹介	歯科医師としての臨床経験を有した講師が大学教員の教育経験を踏まえ、歯科衛生士に必要な知識を講義する。 日本歯科大学 客員教授 口腔衛生学・口腔衛生学会 専門医、代議員						
目的	3年間の歯科衛生士養成カリキュラムにおいて学習した分野のうち、歯科衛生士国家試験に関わる専門基礎分野、専門分野について総まとめの講義を行い、多職種連携を行うために歯科衛生士に求められる専門知識を習得できるようになる。						
科目概要	歯科衛生士として総合的な基礎力、応用力を習得し、国家試験合格のために理解を深める。模擬試験・臨時試験・卒業見込判定試験・卒業試験を受験し、国家試験の合格を目指す。						
到達目標	歯科衛生士として総合的な基礎力、応用力を習得し国家試験合格を目指す。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。 ( )は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	各教科の教科書			事前事後 学習と その内容	事前学習として、教科書の授業に該当するページを読むこと。 事後学習として、配布プリントを再読をすること。 授業の最後に小テストを行い、授業で得た知識の確認を行う。		
参考図書	今までに使用したノートや教科書						
特記事項	【資料(補助教材)】随時配布						

### 授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	細胞の基本的生理機能 筋組織と運動ニューロンの働き 消化器官の機能、血液循環の仕組み	講義	【生理学】 各機能・各構造・働きと反射について理解する。
2	血液成分の機能 神経系の機能・呼吸器の機能 体温調節機構	講義	【生理学】 各機能・機序・特徴や構造について理解する。
3	内分泌腺の種類と機能 口腔感覚、味覚と嗅覚の役割と特性 下顎運動と顎反射	講義	【口腔生理学】 各機能と構造・特徴について理解する。
4	嚥下と嘔吐の機序 唾液の機能と分泌機序 発声機序	講義	【口腔生理学】 嚥下に関わる器官と、嚥下時の食塊の動き・嘔吐の機序と神経機構を理解できる。 唾液の成分、分泌機構および唾液分泌の神経性調節・発声機序について理解できる。
5	血液に関連する薬物・作用・副作用 抗炎症薬を分類し、薬理作用 抗感染薬、消毒薬	講義	【薬理学】 各薬理作用や作用機序を理解する。
6	ホルモンの作用	講義	【薬理学】 代謝性疾患治療薬について理解する。
7	齲蝕予防・歯髄保存療法・感染根管治療に用いる薬物、歯周治療・顎・口腔粘膜疾患に用いる薬物の理解	講義	【歯科薬理学】 歯科疾患に使用する薬物を理解する。
8	硬組織疾患及び発育異常の種類とその処置法	講義	歯の硬組織疾患の種類、病態とその診断についての知識を得る。また、特にう蝕症についてはその分類、検査法、処置法について習得する。
9	保存修復の処置方法について-1	講義	保存修復処置の方法(硬組織切削法、窩洞形態、形成法、修復の補助法)と処置ステップの流れ、器材、薬剤等の用法について学ぶ。また保存修復処置における衛生士の診療補助、介補等の業務、役割について習得する。
10	保存修復の処置方法について-2	講義	保存修復処置の方法(硬組織切削法、窩洞形態、形成法、修復の補助法)と処置ステップの流れ、器材、薬剤等の用法について学ぶ。また保存修復処置における衛生士の診療補助、介補等の業務、役割について習得する。
11	コンポジットレジン修復-1	講義	コンポジットレジン修復に用いる材料及び器材の特徴とその用法について習得する。特に現在最も多く用いられている可視光線重合型接着性コンポジットレジンを中心に解説する。
12	コンポジットレジン修復-2	講義	コンポジットレジン修復の適応症、臨床における修復手順、応用例について習得する。
13	セメント修復	講義	各種セメントの特性とその用法について習得する。
14	鑄造修復	講義	鑄造修復のあらまし、特徴と適応症について習得する。
15	定期試験		筆記試験 講義内容全範囲から出題する。

科目名 (英)	歯科衛生士総合講座Ⅲ Comprehensive Studies for Dental HygienistsⅢ	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	古平 衣美
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科衛生士科Ⅰ部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	後期
		単位	2			曜日/時間	月～金/1～4限
講師紹介	歯科医師としての臨床経験を有し大学教員の教育経験を踏まえ、歯科衛生士に必要な知識を講義する。 歯学博士 昭和大学スペシャルニーズリハビリテーション科特別普通研究員 口腔リハビリテーション学会 MFT学会 臨床心理カウンセラー						
目的	3年間の歯科衛生士養成カリキュラムにおいて学習した分野のうち、歯科衛生士国家試験に関わる専門基礎分野、専門分野について総まとめの講義を行い、多職種連携を行うために歯科衛生士に求められる専門知識を習得できるようになる。						
科目概要	歯科衛生士として総合的な基礎力、応用力を習得し、国家試験合格のために理解を深める。模擬試験・臨時試験・卒業見込判定試験・卒業試験を受験し、国家試験の合格を目指す。						
到達目標	歯科衛生士として総合的な基礎力、応用力を習得し国家試験合格を目指す。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ( )は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	各教科の教科書			事前事後 学習と その内容	事前学習として、教科書の授業に該当するページを読むこと。 事後学習として、配布プリントを再読をすること。 授業の最後に小テストを行い、授業で得た知識の確認を行う。		
参考図書	今までに使用したノートや教科書						
特記事項	【資料(補助教材)】随時配布						

### 授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	感染の成り立ちと発病 微生物の種類、感染症の種類 免疫の概要	講義	【微生物学】 感染と免疫の関係について理解する。
2	微生物の分類 細菌の一般的な構造 病原微生物	講義	【微生物学】原核生物と真核生物という分類と概念を理解する。細菌の構造とグラム染色との関係について理解する。グラム陽性球菌、グラム陰性球菌、特殊な細菌について理解する。HIVとAIDS・B型肝炎ウイルスについて理解する。
3	口腔常在微生物 化学療法 院内感染対策	講義	【口腔微生物学】 デンタルプラーク、ミュータンス菌、歯周病の原因菌について理解する。 抗菌薬の種類と作用、感染予防の概念、滅菌と消毒の違いについて理解する。
4	病理学序論・遺伝性疾患と奇形 循環障害 代謝障害と退行性病変 増殖と修復	講義	【病理学】 正常な細胞、組織と病気の原因について理解する。循環系の機能、病態を理解する。 退行性病変と進行性病変の病理学的経過を理解する。
5	炎症 免疫とアレルギー 腫瘍・呼吸器系疾患	講義	【病理学】 炎症性疾患(特に歯周炎)について理解する。免疫学や疾患が起こりやすい生体の生理について理解する。腫瘍の種類、性状について理解する。
6	歯の発育異常・口腔領域の奇形、歯の付着 物および沈着物・エナメル質う蝕、象牙質う蝕 および歯髄の病変、歯周組織の病変	講義	【口腔病理学】歯の機械的および化学的損傷 形態的、大きさ、数、位置、咬合に関する異常を理解する。象牙質、セメント質、歯髄、歯根膜の病的変化やう蝕の発生、原因、分類について理解する。歯髄病変の分類(歯髄炎・根尖性歯周炎)、性状について理解する。
7	口腔粘膜の病変、全身疾患と口腔粘膜病変 との関連や前癌病変、口腔領域の病変や唾 液腺の病変、口腔領域の加齢変化	講義	【口腔病理学】 各病態、特徴的所見を理解する。嚢胞と腫瘍の区別が理解できる。 病態の進行と加齢の影響を見分ける。
8	歯科診療補助論(まとめ)	講義	各診療科における診療補助の共同動作を総合的な理解をする。
9	歯科診療補助論(まとめ)	講義	各診療科における診療補助の共同動作を総合的な理解をする。
10	歯科予防処置論(まとめ)	講義	歯および口腔の疾患を的確に予防するために、専門的な知識、技能、態度を習得する。
11	歯科予防処置論(まとめ)	講義	歯および口腔の疾患を的確に予防するために、専門的な知識、技能、態度を習得する。
12	歯科保健指導論(まとめ)	講義	保健指導・保健教育の基礎知識と技術を習得する。
13	歯科保健指導論(まとめ)	講義	保健指導・保健教育の基礎知識と技術を習得する。
14	保健指導・保健教育の基礎知識と技術を習 得する。	講義	総合的な知識を習得する。
15	定期試験		筆記試験 講義内容全範囲から出題する。

科目名 (英)	口腔機能管理 基礎 Basic Oral rehabilitation and functional	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	上田 隆介
		授業形態	講義		有	開講区分	
学科・コース	歯科衛生士科 I 部	時間数	15	授業回数	8	曜日/時間	木/1.2限
単位		1					
講師紹介	<p>歯科医師としての臨床経験を有した講師が、多職種と連携する中で今の歯科衛生士に求められる口腔機能管理を講義する。日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士、日本救急医学会ICLS認定、日本認知症ケア学会認知症ケア専門士、日本小児歯科学会所属。訪問歯科診療に従事し、摂食嚥下障害患者に対する嚥下機能評価、食支援を行なっている。</p>						
目的	<p>超高齢社会が加速する日本の地域医療において、歯科医療が担うべき摂食・嚥下障害の病因、病態およびその対処法を理解し、摂食・嚥下機能の保持増進を達成するための知識と技術を習得できるようになる。</p>						
科目概要	<p>摂食・嚥下機能障害についての理解を深め、摂食・嚥下機能訓練法を習得できる。</p>						
到達目標	<p>摂食嚥下運動に関わる器官の基本的な解剖と正常な摂食嚥下機能のプロセスを説明できる。 摂食嚥下機能障害の代表的な病因と病態を説明できる。 摂食嚥下機能障害患者の診療における歯科衛生士の役割を説明できる。</p>						
評価方法	<p>学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。 ( )は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。</p> <p>■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート</p>						
教科書	歯科衛生士のための摂食嚥下リハビリテーション(医歯薬出版)			事前事後 学習と その内容	毎回講義の最初と最後に10分程度の小テストを行う。 前回の講義と教科書の関連ページを復習するのに20分程度の時間を要する。		
参考図書	必要に応じてテキストを参照						
特記事項	講義パワーポイント資料						

### 授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	1.日本の高齢者の現状と、高齢化に伴う疾病構造の変化を理解する。 2.歯科医療における摂食嚥下リハビリテーションの位置付けを理解する。	講義	高齢者の加齢に伴う口腔内感覚の変化や解剖学的変化、生理学的な変化について リハビリテーションの概念や、日常生活活動(ADL)について 摂食嚥下障害の概念とその原因、重症度分類について
2	1.摂食嚥下に関与する口腔解剖および生理について理解する。 2.摂食嚥下リハビリテーションの概念を理解し、対応力を身につける。	講義	口腔周囲筋を含む、摂食嚥下に関与する筋肉について 咽頭や喉頭の構造について 加齢による摂食・嚥下運動の変化について
3	1.摂食嚥下機能の発達段階について理解する。 2.小児期の摂食嚥下障害の原因と主な障害の特徴について理解する。	講義	離乳期、幼児期における摂食嚥下機能の発達について 発達期の嚥下障害の要因、脳性麻痺、知的障害、ダウン症患者の摂食嚥下障害の特徴
4	1.成人の摂食嚥下障害の5期における障害障害について理解する。 2.口腔機能の維持向上のための歯科衛生士の役割を理解する。	講義	成人期の摂食嚥下障害の5期について 成人の摂食嚥下障害に関わる因子について 口腔リハビリテーションの概念について
5	1.加齢に伴う摂食嚥下機能の変化を理解し、介護予防と口腔機能向上を理解する。 2.摂食嚥下障害の代表的な原因疾患について理解する。	講義	加齢に伴う生理学的、解剖学的変化を理解し、高齢者の窒息や誤嚥性肺炎を予防する摂食嚥下障害をもたらす代表的な疾患について
6	1.摂食嚥下機能のアセスメントについて理解する。 2.スクリーニング検査と精密検査法について理解する。	講義	アセスメント方法、ADLの評価について 摂食嚥下機能に関する所見について RSST・MWSTについて 嚥下造影検査・嚥下内視鏡検査について
7	1.地域包括ケア推進や多職種連携における歯科衛生士の在り方・役割を理解する。 2.高齢者の居宅、施設、病棟での対応の違いを理解する。	講義	地域包括ケアシステムの仕組みとチームアプローチについて 摂食嚥下リハビリテーションに関わる職種について 摂食嚥下リハビリテーションの実際と歯科衛生士の役割について 高齢者それぞれの生活の場所に応じた対応について
8	定期試験		筆記試験 講義内容全範囲から出題する。

科目名 (英)	インプラントアシスタントワーク Implant Assistant Work	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	高橋 理/深川 雅彦/嶋倉 史剛
		授業形態	講義		有	開講区分	
		時間数	15	授業回数	8		
学科・コース	歯科衛生士科 I 部	単位	1			曜日/時間	木/3,4限
講師紹介	高橋 理:歯学部卒業後、歯学博士を取得。以後、大学教員として37年間、歯科医学の教育に従事。豊富な実務経験を有する。 深川 雅彦:歯科大学卒業後、英国リーズ大学で学位取得。国際インプラント学会認定医。歯科医師として30年以上にわたる臨床経験を有する。 嶋倉 史剛:歯科大学卒業後、大学の歯周病学講座にて歯周治療と咬合学を学び、歯科臨床と教育に従事、豊富な実務経験を有する。						
目的	歯科外来、訪問歯科診療、高齢者施設、デイサービスなど様々な場面での口腔管理が必要となっている。特に外来においては口腔機能低下症が疾患として成立しており、その管理が必要となっている。また、高齢者のみならず乳幼児・学童の口腔機能管理は生涯において生きるために自身の口でしっかり食べるためにとても大切な役割をになっている。口腔機能を管理できる知識と技術を習得することを目的としている。						
科目概要	経験豊富な講師が実際のインプラント治療を行う際にアシスタントである歯科衛生士に知っていて欲しい知識や技術を伝達する。						
到達目標	インプラントの構造を説明できる。インプラント手術の様々な治療法を説明できる。術前・術中・術後に衛生士に求められる役割を説明できる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ( )は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	インプラントアシスタントワーク(日本総合口腔医療学会)			事前事後 学習と その内容	スライドで多くの写真や動画を用いて、実際のインプラント手術や解剖やCT読影法など高度な内容の授業を行う。 講義内容を理解するために、講義の前に教科書でインプラントの構造など基本的な知識と専門用語を覚えておく。		
参考図書	なし。						
特記事項	【資料(補助教材)】随時配布						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	歯科治療におけるインプラント治療の位置づけ、ならびに特殊性を理解して、その術前、術中、術後に必要なヒト解剖学的背景を習得し、治療補助への応用を理解する。	講義	インプラント治療に必要な解剖学 インプラント手術に際して注意すべき解剖学的背景 生体と人工材料との骨結合メカニズム
2	インプラントと顎骨との骨結合に万全を期すための検査法を理解して、その検査結果を治療および治療補助へ応用する科学的根拠を理解する。	講義	インプラント治療におけるCT(コンピュータ断層撮影)検査の重要性 画像診断と手術の適合性 インプラント手術における術前管理 手術前説明、患者来院から手術前まで
3	基礎疾患を有する患者のインプラント治療について、服用中の薬剤の評価、周術期における抗菌薬、および全身管理について治療補助の基礎的な考え方を習得する。	講義	全身疾患と薬剤について インプラント手術の周術期における抗菌薬の投与 インプラント治療に関わる全身管理 手術後の使用器材の後片付けと滅菌、術後の患者への説明
4	治療を成功に導くため手術法を熟知し手順を理解する必要がある。手術を先読みし術中の危険を回避し術者が円滑に手術できるアシスタントワークを習得する。	講義	インプラント治療の流れ インプラント埋入手術(1回法、2回法) 抜歯即時インプラント手術 インプラント埋入手術(GBR法、ソケットリフト、サイナスリフト、スプリットクレスト)
5	補綴時の印象法、補綴処置(セメント固定・スクリュー固定、可撤式義歯)の特徴など二次手術から補綴物装着までの流れを理解する。	講義	インプラントの印象法と固定法 インプラント治療で起こりうるトラブル インプラント治療の注意点 手術前説明、患者来院から手術前まで
6	顎骨内に無菌的にインプラントを埋入する手術であるので器具の滅菌、手指と術野の消毒を徹底し手術環境の感染予防対策を行う必要性を理解する。	講義	手術当日の手術室の準備、手術前の手洗い、ガウンテクニック 滅菌手袋の装着・手術野の消毒 スタッフや機器類の配置、インプラント埋入手術 手術後の使用器材の後片付けと滅菌、術後の患者への説明
7	インプラント手術後に施すメンテナンス、およびプラークコントロールなど、インプラント周囲炎に対する予防措置の全体像を習得、理解する。	講義	インプラントのメンテナンスの重要性 上部構造装着後のプラークコントロール インプラント周囲炎への対処
8	定期試験		筆記試験 講義内容全範囲から出題する。



科目名 (英)	実習指導教育Ⅱ Clinical Practice TrainigⅡ	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	相川 奈美
		授業形態	講義・演習		有		
		時間数	15	授業回数	8	開講区分	
学科・コース	歯科衛生士科Ⅰ部	単位	1			曜日/時間	木/1.2限
講師紹介	歯科衛生士としての臨床経験を有し、地域住民の健康増進を目的に歯科保健指導を行い貢献してきた。 歯牙及び口腔の疾患の予防に取り組み歯科衛生士のスペシャリストを目指すために、歯科衛生士としての目的・重要性の確認と、専門的な知識と技術の基礎を習得する授業を行う。						
目的	主体性とコミュニケーション能力を発揮し、臨地・臨床実習の準備を行い、臨地臨床実習への不安を解消して登院できるようになる。						
科目概要	臨地実習に臨む為の身構え・気構え・心構えと実践力を身につけ、効果的な臨地臨床実習にするための理解を深める。						
到達目標	実習の流れや術式を理解した歯科診療の補助ができるようになり、不安なく登院できるようになる。 業界からの信頼を得るための技術・知識・スキル・考え方・マナーを習得できる。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ( )は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 <input checked="" type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input type="checkbox"/> レポート						
教科書	Hand-book of Life Style 最新歯科衛生士教本 歯科診療補助論 他			事前事後 学習と その内容	実習指導要綱に記載されている必要事項を確認する。 臨床実習の振り返りを行い予習しておくことが望ましい。 さらに復習としてその日に講義した資料を読んで復習すること。		
参考図書	なし。						
特記事項	なし。						

### 授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	3年生の自覚と気持ちを新たにす。	講義	Ⅱ期実習開始に向けて実習指導要綱の再確認 3年生としての目標設定を行う。
2	臨地実習への身構え気構え心構えを身につける。	講義	課題の効果的な勉強方法について ノートの作成の仕方
3	臨地実習に必要な準備について	講義	実習時間カウント 臨地実習の振り返り
4	臨地実習への身構え気構え心構えを身につける。	講義	卒業生講演 臨床実習と国家試験勉強の両立について
5	臨地臨床実習に必要な準備について	講義	Ⅲ期実習先配属発表 定期申請 自己紹介書作成 Ⅲ期目標設定 Ⅱ期臨床実習のお礼状作成
6	臨地実習への身構え気構え心構えを身につける。	演習	大学病院実習オリエンテーション
7	臨地実習を通して身につけた身構え気構え心構えを振り返る。	講義	実習後教育 Ⅲ期お礼状作成 実習時間カウント 臨地実習の振り返り
8	定期試験		筆記試験 講義内容全範囲から出題する。

科目名 (英)	歯科衛生士総合講座基礎Ⅲ Basic Comprehensive Studies for Dental HygienistsⅢ	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	三嵯 雅子/古平 衣美
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科衛生士科Ⅰ部	時間数	30	授業回数	15	開講区分	前期
		単位	2			曜日/時間	木/1.2限
講師紹介	三嵯 雅子: 歯科医師としての臨床経験を有し大学教員の教育経験を踏まえ、歯科衛生士に必要な知識を講義する。 歯学博士 新東京歯科衛生士学校副学校長 昭和大学歯学部口腔外科学講座兼任講師 日本口腔外科学会認定専門医 日本抗加齢医学会 古平 衣美: 歯科医師としての臨床経験を有し大学教員の教育経験を踏まえ、歯科衛生士に必要な知識を講義する。 歯学博士 昭和大学スペシャルニーズリハビリテーション科特別普通研究員 口腔リハビリテーション学会 MFT学会 臨床心理カウンセラー						
目的	臨地実習を通して専門分野のグループワークを行い、歯科衛生士に求められる専門知識の根本的に理解し応用できるようになる。						
科目概要	歯科衛生士として総合的な基礎力、応用力を習得し、国家試験合格のために理解を深める。模擬試験・臨時試験・卒業見込判定試験・卒業試験を受験し、国家試験に合格できる。						
到達目標	歯科衛生士として総合的な基礎力、応用力を習得し国家試験合格を目指す。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。 ( )は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	各教科の教科書 臨床実習ノート			事前事後 学習と その内容	代表的な症例の深い理解や知識を繋げることにより患者実習、臨床実習に繋がるだけではなく国家試験対策にも役立てられる。		
参考図書	今までに使用したノートや教科書						
特記事項	【資料(補助教材)】随時配布						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	3症例検討	講義	症例ノートに記入する。 症例に関して理解を深める。 発表用パワーポイントを作成する。
2	3症例検討	講義	症例に関して課題を考える。 グループ作業を行うことでアクティブラーニング効果を持つ。 発表用パワーポイントを完成させる。
3	3症例発表	講義	各班症例発表を行う。 発言力、聞く力を養う。
4	4症例検討	講義	症例ノートに記入する。 症例に関して理解を深める。 発表用パワーポイントを作成する。
5	4症例検討	講義	症例に関して課題を考える。 グループ作業を行うことでアクティブラーニング効果を持つ。 発表用パワーポイントを完成させる。
6	4症例検討	講義	各班症例発表を行う。 発言力、聞く力を養う。
7	5症例検討	講義	症例ノートに記入する。 症例に関して理解を深める。 発表用パワーポイントを作成する。
8	6症例検討	講義	症例ノートに記入する。 症例に関して理解を深める。 発表用パワーポイントを作成する。
9	6症例検討	講義	症例に関して課題を考える。 グループ作業を行うことでアクティブラーニング効果を持つ。 発表用パワーポイントを完成させる。
10	6症例発表	講義	各班症例発表を行う。 発言力、聞く力を養う。
11	7症例検討	講義	症例ノートに記入する。 症例に関して理解を深める。 発表用パワーポイントを作成する。
12	7症例検討	講義	症例に関して課題を考える。 グループ作業を行うことでアクティブラーニング効果を持つ。 発表用パワーポイントを完成させる。
13	7症例検討	講義	各班症例発表を行う。 発言力、聞く力を養う。
14	7症例検討	講義	症例ノートに記入する。 症例に関して理解を深める。 発表用パワーポイントを作成する。
15	定期試験	講義	筆記試験 講義内容全範囲から出題する。

科目名 (英)	歯科衛生士総合講座基礎Ⅳ Basic Comprehensive Studies for Dental Hygienists Ⅳ	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	三嵯 雅子/古平 衣美
		授業形態	講義		有	開講区分	
学科・コース	歯科衛生士科Ⅰ部	時間数	30	授業回数	15		曜日/時間
		単位	2			木/1,2限	
講師紹介	三嵯 雅子: 歯科医師としての臨床経験を有し大学教員の教育経験を踏まえ、歯科衛生士に必要な知識を講義する。 歯学博士 新東京歯科衛生士学校副学校長 昭和大学歯学部口腔外科学講座兼任講師 日本口腔外科学会認定専門医 日本抗加齢医学会 古平 衣美: 歯科医師としての臨床経験を有し大学教員の教育経験を踏まえ、歯科衛生士に必要な知識を講義する。 歯学博士 昭和大学スペシャルニーズリハビリテーション科特別普通研究員 口腔リハビリテーション学会 MFT学会 臨床心理カウンセラー						
目的	臨地実習を通して専門分野のグループワークを行い、歯科衛生士に求められる専門知識の根本的に理解し応用できるようになる。						
科目概要	歯科衛生士として総合的な基礎力、応用力を習得し、国家試験合格のために理解を深める。模擬試験・臨時試験・卒業見込判定試験・卒業試験を受験し、国家試験の合格を目指す。						
到達目標	歯科衛生士として総合的な基礎力、応用力を習得し国家試験合格を目指す。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A (4.0)、89点～80点B (3.0)、79点～70点C (2.0)、69点～60点D (1.0)、59点以下を不合格とする。 ( )は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	各教科の教科書 臨床実習ノート			事前事後 学習と その内容	代表的な症例の深い理解や知識を繋げることにより患者実習、臨床実習に繋がるだけではなく国家試験対策にも役立てられる。		
参考図書	今までに使用したノートや教科書						
特記事項	【資料(補助教材)】随時配布						

授 業 計 画			
回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	8症例検討	講義	症例に関して課題を考える。アクティブラーニングでグループ作業を行う。 症例に関して理解を深める。発表用パワーポイントを作成する。
2	8症例検討、発表(3班分)	講義	発表用パワーポイントを完成させる。 3班分症例発表を行う。 発言力、聞く力を養う。
3	8症例検討、発表(7班分)	講義	発表用パワーポイントを完成させる。 3班分症例発表を行う。 発言力、聞く力を養う。
4	9症例検討	講義	症例に関して課題を考える。アクティブラーニングでグループ作業を行う。 症例に関して理解を深める。 発表用パワーポイントを作成する。
5	9症例検討、発表(3班分)	講義	発表用パワーポイントを完成させる。 3班分症例発表を行う。発言力、聞く力を養う。
6	9症例検討、発表(7班分)	講義	発表用パワーポイントを完成させる。 7班分症例発表を行う。 発言力、聞く力を養う。
7	10症例検討	講義	症例に関して課題を考える。アクティブラーニングでグループ作業を行う。 症例に関して理解を深める。 発表用パワーポイントを作成する。
8	10症例検討、発表(3班分)	講義	発表用パワーポイントを完成させる。 3班分症例発表を行う。発言力、聞く力を養う。
9	10症例検討、発表(7班分)	講義	発表用パワーポイントを完成させる。 7班分症例発表を行う。 発言力、聞く力を養う。
10	11症例検討	講義	症例に関して課題を考える。アクティブラーニングでグループ作業を行う。 症例に関して理解を深める。 発表用パワーポイントを作成する。
11	11症例検討、発表(3班分)	講義	発表用パワーポイントを完成させる。 3班分症例発表を行う。発言力、聞く力を養う。
12	11症例検討、発表(7班分)	講義	発表用パワーポイントを完成させる。 7班分症例発表を行う。 発言力、聞く力を養う。
13	課題表配布	講義	定期試験に向け症例ごとの知識の確認をする。
14	課題表配布	講義	定期試験に向け症例ごとの知識の確認をする。
15	定期試験		筆記試験 講義内容全範囲から出題する。

科目名 (英)	就職講座 Occupation Orientation	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	西村 充剛/柏村 美幸
		授業形態	講義		無		
学科・コース	歯科衛生士科 I 部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	前期
		単位	1			曜日/時間	木/3,4限
講師紹介	西村 充剛:新東京歯科衛生士学校・新東京歯科技工士学校 キャリアセンター長 専門学校でのキャリアアドバイザーとしての経験を活かし、歯科衛生士として必要な就職の知識を講義する。 柏村 美幸:新東京歯科衛生士学校・新東京歯科技工士学校 キャリアセンター所属 専門学校でのキャリアアドバイザーとしての経験を活かし、歯科衛生士として必要な就職の知識を講義する。						
目的	歯科外来、訪問歯科診療、高齢者施設、デイサービスなど様々な場面での口腔管理が必要となっている。特に外来においては口腔機能低下症が疾患として成立しており、その管理が必要となっている。また、高齢者のみならず乳幼児・学童の口腔機能管理は生涯において生きるために自身の口でしっかり食べるためにとても大切な役割をになっている。口腔機能を管理できる知識と技術を習得することを目的としている。						
科目概要	社会人としての身構え気構え心構えを身につけ、就職活動に必要な履歴書の書き方、面接対策など基本知識を習得する。						
到達目標	歯科業界の現状、それぞれの歯科医院の取り組みや情報を把握する。 基本的な就職活動の方法を知る。見学の際チェックするポイントを理解する。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ( )は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 <input type="checkbox"/> 筆記試験 <input type="checkbox"/> 口頭試験 <input type="checkbox"/> 実技試験 <input type="checkbox"/> 論文 <input checked="" type="checkbox"/> レポート						
教科書	就職活動サポートブック			事前事後 学習と その内容	事前学習としてスマホキャンパスを活用し、就職サポートブックを読み、歯科業界における就職について確認する。 事後学習として授業を踏まえて進路決定を進めていくことを推奨する。		
参考図書	就職求人誌・求人サイト・就職スマホキャンパス						
特記事項	【プリント(補助教材)】 随時配布						

### 授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	キャリアセンターの紹介	講義	歯科業界について。 就職活動サポートブックの説明。 求職登録カードの記入。
2	求人票の見方	講義	求人票の項目を理解する。 求人票を理解し見学先を決定する。
3	歯科医院の取り組みを知る	講義	歯科医院を見学の際のチェックするポイントを理解する。 見学の課題について。
4	大学病院の業務内容	講義	大学病院の業務内容を理解する。
5	歯科医院の採用説明	講義	歯科医院による採用説明。 先輩歯科衛生士の体験談。 業界からのアドバイス。
6	歯科医院の採用説明	講義	歯科医院による採用説明。 先輩歯科衛生士の体験談。 業界からのアドバイス。
7	歯科医院の採用説明	講義	歯科医院による採用説明。 先輩歯科衛生士の体験談。 業界からのアドバイス。
8	定期試験		レポート提出。 就職先内定を得て、歯科衛生士としての職業観・勤労観を明確にする。

科目名 (英)	歯科衛生士総合講座Ⅳ Comprehensive Studies for Dental HygienistsⅣ	年次	3	必修科目	実務経験	科目 責任者	三嶋 雅子
		授業形態	講義		有		
学科・コース	歯科衛生士科Ⅰ部	時間数	15	授業回数	8	開講区分	後期
		単位	1			曜日/時間	月～金/1～4限
講師紹介	歯科医師としての臨床経験を有し大学教員の教育経験を踏まえ、歯科衛生士に必要な知識を講義する。 歯学博士 新東京歯科衛生士学校副学校長 昭和大学歯学部口腔外科学講座兼任講師 日本口腔外科学会認定専門医 日本抗加齢医学会						
目的	3年間の歯科衛生士養成カリキュラムにおいて学習した分野のうち、歯科衛生士国家試験に関わる専門基礎分野、専門分野について総まとめの講義を行い、多職種連携を行うために歯科衛生士に求められる専門知識を習得できるようになる。						
科目概要	歯科衛生士として総合的な基礎力、応用力を習得し、国家試験合格のために理解を深める。模擬試験・臨時試験・卒業見込判定試験・卒業試験を受験し、国家試験の合格を目指す。						
到達目標	歯科衛生士として総合的な基礎力、応用力を習得し国家試験合格を目指す。						
評価方法	学則に定める評価とする。100点～90点A(4.0)、89点～80点B(3.0)、79点～70点C(2.0)、69点～60点D(1.0)、59点以下を不合格とする。 ( )は、GPA。欠席日数が学則に定める授業時間数の3分の1を超える者は、試験を受けることができない。 ■ 筆記試験 □ 口頭試験 □ 実技試験 □ 論文 □ レポート						
教科書	各教科の教科書			事前事後 学習と その内容	事前学習として、教科書の授業に該当するページを読むこと。 事後学習として、配布プリントを再読をすること。 授業の最後に小テストを行い、授業で得た知識の確認を行う。		
参考図書	今までに使用したノートや教科書						
特記事項	【資料(補助教材)】随時配布						

### 授 業 計 画

回数	授業テーマ	授業形態	授業内容
1	顎・口腔領域の疾患(まとめ1)	講義	顎・口腔外科領域における各種疾患、および口腔に関連した全身疾患の病態と治療法について基本的な知識を説明できる。顎・口腔領域の先天異常と発育異常について、症状、原因、および治療法を説明できる。顎・口腔領域の損傷および機能障害について、症状、原因、および治療法を説明できる。
2	顎・口腔領域の疾患(まとめ2)	講義	口腔粘膜の病変について、症状、原因、および治療法を説明できる。 顎・口腔領域の化膿性炎症疾患について、症状、原因、および治療法を説明できる。 顎・口腔領域の嚢胞性疾患について、症状、原因、および治療法を説明できる。
3	顎・口腔領域の疾患(まとめ3)	講義	顎・口腔領域の腫瘍および腫瘍類似疾患について、症状、原因、および治療法を説明できる。 唾液腺疾患について、症状、原因、および治療法を説明できる。 口腔領域の神経疾患について、症状、原因、および治療法を説明できる。
4	バイタルサイン 局所麻酔法 局所麻酔下の処置・手術に係わる全身管理法 精神鎮静法	講義	バイタルサインについて説明できる。局所麻酔薬の分類と種類、血管収縮薬の作用について説明できる。注射器や注射針の種類と取扱い・注意事項を説明できる。各種の局所麻酔方法について説明できる。局所麻酔法に伴う局所および全身的合併症について説明できる。精神鎮静法の目的、適応症、種類、使用機材について説明できる。
5	全身麻酔法 全身的偶発症・救急蘇生法	講義	笑気吸入鎮静法に必要な器材の取扱い・注意事項を説明できる。 有病障害者への局所麻酔下の処置・手術に関わる全身管理法を説明できる。 全身麻酔の適応、全身評価、術前準備について説明できる。
6	生体情報モニタ 救急薬剤	講義	全身麻酔の導入、気道確保について説明できる。 術後管理の要点について説明できる。 歯科治療中の全身的偶発症への対応について説明できる。
7	外来全身麻酔 ペインクリニック	講義	外来全身麻酔の適応と禁忌、術後電話訪問について説明できる。 口腔顔面領域の疼痛・麻痺性疾患に対するペインクリニック診療について説明できる。
8	定期試験		筆記試験 講義内容全範囲から出題する。